

Topic 54

米国ニューメキシコ州の VCP

- 1) こんなところですよ
- 2) ニューメキシコ州の自主浄化プログラム

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、ニューメキシコ州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

1) こんなところですよ

ニューメキシコ州は米国南西部に位置し、州南部はメキシコ国境に接しています。同州は、1912年1月6日、47番目に米国に加入しました。州の総人口は約200万人、人口密度は約6人/k㎡。州都はサンタフェ、州最大都市はアルバカーキです。

ニューメキシコは米国の他州と比べて特にヒスパニック系とネイティブアメリカン（先住民）の人口比率が高いため、生活の様々な場面で文化のブレンドがみられます。聞こえてくる言葉も英語だけではありません。スペイン語はもちろんのこと、国境近くではスペイン語と英語とも似つかないような言葉まで使われているようです。

もう1つニューメキシコから連想するのは、象徴的な色彩です。広大な砂漠の小金色とコントラストを成すうっそうと茂る森林のみどり（乾燥している場所だけではない）、乾いた空気と真っ青な空、雪化粧した山頂、そして忘れてはならないチリソースの緑と赤。そうです！この食材は州の公式野菜。ニューメキシコのダイニングに欠かせません。ちなみに「Green or Red? (チリソースは赤と緑どちらにします?)」が州の公式質問（state question? こんなのがあるのですね）になっています。州都のサンタフェでは、観光するにはもってこいの秋に「サンタフェ ワイン&チリ フィエスタ」が毎年開催されるそうです。秋晴れの空の下でパーッとみんなでFiestaするのは楽しいでしょうね。

そんなニューメキシコにも、もちろん商業の顔があるのです。西隣のアリゾナ州（Topic 41）同様、ニューメキシコでは、乾燥している気候条件等を生かして半導体産業、精密機器が発達しています。その他、近年のIT産業の発達が注目されています。

2) ニューメキシコ州の VCP

さて、本題の汚染サイトの自主浄化プログラムについてです。ニューメキシコ州では1999年から州の環境局により自主浄化プログラム（VRP: Voluntary Remediation Program）が運営されています。2004年の時点でVRP浄化中の全サイト数は約30件。浄化が終了したサイト数は約20件あまり。先週ご紹介したルイジアナ州やアーカンソー州と同様、ニューメキシコ州はVRPやブラウンフィールド再開発の実績がそれほどないようです。

同州のVRPは、他州と同様にVCPの基本構成要素[環境責任の保護（No Further Action Letter, Covenant Not to Sue）、助成金やファンドの仕組み、リスクベースの浄化目標、USEPAとの覚書など]はおさえてあります。と同時に、VRPへの登録をするには、以下の条件を満たさなければならないことになっています。

- ・ VRP登録予定日からさかのぼって6ヶ月以内に実施されたPhase I 環境サイトアセスメント報告書の提出
- ・ 自主浄化作業プラン（案）
- ・ 登録費用1000ドル（返済一切なし）
- ・ サイトの法的な背景（所有者や関連する権利関係など）
- ・ Phase II 環境サイトアセスメントのすべてのデータ（もしあれば）

さて、VRP を利用するにはどのくらいの費用がかかるのでしょうか？誰でもが利用できるようなものなのでしょうか？ Phase I にかかる費用は、おおよそ 2500 ドル。自主浄化作業プランを作るには、専門家の助けを借りて、どんなに安くても 500 ドル。登録費用は 1000 ドル。権利関係の調査は、Phase I に含まれるものもあるでしょうけど、1000 ドルくらいはかかりそう。これだけでも、5000 ドル（60 万円）になってしまいます。もし Phase II が必須だとしたら、個人や小さなお店では VRP を利用することは経済的に困難ではないでしょうか。

日本でも、中小の事業者さんが、土壤汚染の責任を負いきれないという話を聞きます。すべてが税金で賄われるような仕組みでは問題があると思いますが、本当に困っている人たち、かつきちんときれいにしようと考えている人たちが、助かるような制度が必要ですね。

来週は、カンザス州とネブラスカ州の VCP をご紹介いたします。

Thanks God It's Friday!
Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname – 「Land of Enchantment (魅惑の大地:美しい自然と豊かな歴史)」「The Sunshine State (日光が降り注ぐ)」「The Cactus State (サボテンがいっぱい)」「The Spanish State (メキシコが近く、スペイン語を話す人が多い)」

事例紹介 –Trinity Site (トリニティーサイト) :メキシコ国境の街、テキサス州エルパソから北へ 100km ほど行ったところに、白い砂の砂漠が延々と広がるホワイトサンズ国立公園があります。ここは、石膏(硫酸カルシウム)でできた砂が堆積した、こんなところが地球上にあったのかというような美しい場所です。さて、さらに 100km 近く北にいったところに、トリニティーサイトと呼ばれる一画(ホワイトサンズ内ではありません)がありますが、実はここで 1945 年 7 月 16 日、世界で初めての核実験(大気圏内)がおこなわれました。現在アメリカの歴史記念公園になっており、年に 2 回ほど一般の人たちが立ち入ることができます。

まず、お断りしなければなりません、ここはブラウンフィールドサイトではありません。定義から言えば、放射性物質による汚染はスーパーファンド法の範疇ではなく、また、再開発事業をおこなうような場所でもないのです、ブラウンフィールドとして VCP のお世話になるようなことはまずないでしょう。ちなみに、放射能は人の健康に問題がないレベルまで戻っているそうです。

日本では、放射性廃棄物は廃棄物処理法上の廃棄物ではありません。また、土壤汚染の分野でも放射能は考慮外です。チェルノブイリのような重大な事例はありませんが、岡山・鳥取県境付近でのウラン残土問題のように、放射能による汚染土壌があるのはたしかです。再開発うんぬんという話以前のこともかもしれませんが、こんな側面から土地の環境問題を議論する場が将来出てくるかもしれません。